

Title	商社合併における成功要因に関する考察-双日を事例として-
Sub Title	
Author	岡山, 祐也 大藪, 毅
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2008
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2008年度経営学 第2302号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002008-2302">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002008-2302</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	大藪 毅 研究会	学籍番号	80730232	氏名	岡山 祐也
(論文題名)					
商社合併における成功要因に関する考察—双日を事例として—					
(内容の要旨)					
<p>近年、日本においてM&amp;Aの数が急増している。この背景としては、国内市場が縮小均衡へと進み始める急速な外部環境変化に対応し、国内での事業基盤の強化やグローバル化によって生き残り、企業価値最大化を達成する成長戦略手段としてM&amp;Aを採用する企業が増えていることが推測される。</p> <p>しかし、2001年のILOレポートで「世界における合併や買収の半数以上が失敗に終わっている。」、「M&amp;Aを行うことが伝統的に日本よりも根付いていると考えられる欧米でさえも、成功事例は少ない」と指摘されているように、M&amp;Aにより意図した効果をもたらすことができた企業は非常に少ない。</p> <p>失敗事例が多いと言われている中、日本のM&amp;Aの一例として、2003年4月に日商岩井とニチメンによる合併を果たした双日は、合併以降、着実に業績を上げており、その結果、2007年には、1年前倒しでの中期経営計画の達成・復配・優先株式の一掃、投資適格基準格付け獲得を果たしているため、成功事例と考えられる。</p> <p>多くのM&amp;Aが失敗している中、何故双日に関しては成功しているのだろうか。先行研究、そして事例研究から成功要因に寄与したものとして「優秀な人材に対してリテンション策」、「組織文化の融合」、「リスク管理の強化」の3つを実施し、それらが成功にプラスに働いたという仮説を立てた。そしてその検証のため、アンケートによる定量分析を通して検証を実施した。</p> <p>定性分析の検証結果から、「優秀な人材のリテンション策」に関しては、実施しておらず、仮説は棄却されたが、「組織文化の融合」、「リスク管理の強化」に関しては実施しており、成功にプラスに働いたという結果が出た。</p> <p>さらなり定量分析では、実施した「組織文化の融合」、「リスク管理の強化」に関しては、双日社員は成功要因と捉えているという結果が出た。「優秀な人材のリテンション策」に関しては仮に実施していれば成功にプラスに働いたという結果が出た。</p>					